

平成22年2月24日  
総務省消防庁

件名

**住宅用火災警報器の設置による奏功事例が3倍増！**

～ 住宅火災による死者数の減少に大きな効果を発揮中～

標記の件について次のとおり情報提供がありましたので、参考配布いたします。

- 1 【消防本部名】  
東京消防庁(東京都)
- 2 【発生日時】  
平成21年12月1日から平成22年1月末日まで
- 3 【発生場所】  
東京消防庁管内
- 4 【事案の概要】  
別紙 のとおり
- 5 【そ の 他】  
本事案の詳細に係るお問い合わせは、各消防本部へお願いします。

(担当)

消防庁総務課広報係

担当：御手洗係長・藤岡(拓)事務官

電話：03-5253-7521

FAX：03-5253-7531



平成22年2月22日

## 住宅用火災警報器の設置による奏功事例が3倍増！

— 住宅火災による死者数の減少に大きな効果を発揮中 —

東京消防庁では、3月1日からの春の火災予防運動を迎えるに当たり、住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の効果を強く訴え、いよいよ義務化を迎える4月1日に向け一人でも多くの都民の住宅に住警器の設置が進むよう呼び掛けていきます。

また、住宅に住警器の設置が進むとともに奏功した事例の報告も2倍、3倍と増えています。さらに、昨年12月から今年1月にかけての2か月間で住宅火災による死者数は18人で、前年同時期の30人に比較すると4割も減少しており、住警器の普及の効果が表れてきています。

### 1 奏功事例の概要（平成21年12月1日から22年1月末日までの奏功事例）

#### (1) 発見が遅れがちな就寝中の火災に効果を発揮！（別紙、1(1)参照）

2か月間の奏功事例の報告件数は83件で、前年同時期の25件に比べ3倍以上も増加しています。このうち13件が就寝中の奏功事例で、発見が遅れがちな就寝中の火災にも大きな効果を発揮しています。

#### (2) 台所で調理中に「うっかりその場を離れる」が危険！（別紙、1(2)参照）

83件のうち、7割近くが調理中にうっかりその場を離れたことなどによる「こんろ」を原因とするもので、台所からの出火危険の高さと、住警器の有効性を表しています。

また、住宅火災における死者発生原因の多くを占める「たばこ」や「ストーブ類」を原因とする火災での奏功事例も2倍以上となっています。

### 2 住宅火災による死者の発生状況

#### (1) 今年1月中の死者発生数は9人、今年の半減！（別紙、2(1)参照）

最近5年間の年末年始を中心とする2か月間の住宅火災による死者数は、4年連続で30人を超えていましたが、今期の2か月間では18人に減少しています。

今年1月の死者発生数は9人であり、昨年に比べ半減、平成14年以来8年ぶりに10人を下回りました。

#### (2) 「ストーブ類」「たばこ」が死者発生原因の半数以上！（別紙、2(2)参照）

18人が死亡した住宅火災の原因は「ストーブ類」（6人）が最も多く、次いで「たばこ」（4人）となっており、この2つの原因で全体の半数以上を占めています。

また、就寝中に亡くなった人は、6人で全体の3割以上を占めており、発見の遅れが死者発生の重要な要因となっています。

※詳細は、別紙資料を参照してください。

問い合わせ先

東京消防庁（代）3212-2111

広報課報道係 内線 2345 ~ 2350

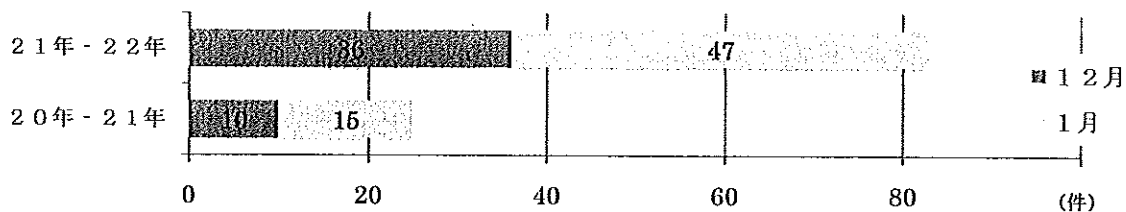
平成21年12月1日から22年1月末日までに発生した奏功事例の比較・分析等

1 住宅用火災警報器による奏功事例について

(1) 奏功事例の件数と鳴動するに至った原因の内訳等

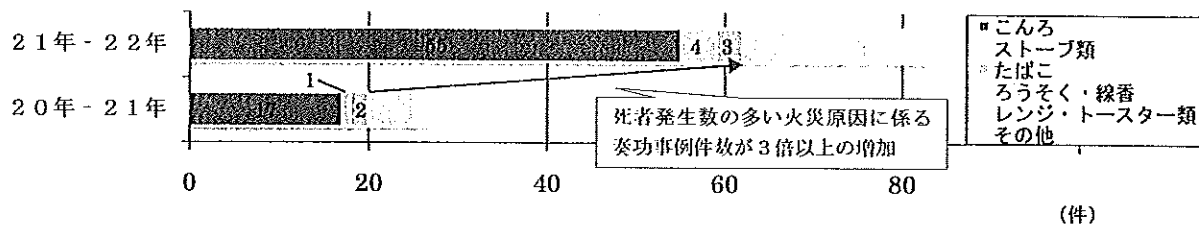
項目	平成20年12月～平成21年1月			平成21年12月～平成22年1月				
	12月	10件	25件	12月	36件	83件		
件数	1月	15件		1月	47件			
住警器が鳴動するに至った原因の内訳	1位	こんろ		17件	1位	こんろ		55件
	2位	放火(疑い含む)		3件	2位	ろうそく・線香		6件
	3位	たばこ		2件	3位	レンジ・トースター類		5件
	4位	ストーブ類		1件	4位	ストーブ類		4件
	—	不明		2件	5位	たばこ		3件
					6位	放火		1件
					電気器具(短絡)		1件	
					照明器具		1件	
				—	不明		7件	
就寝中に警報音に気付いた事例	6件			13件				

平成21年12月1日から22年1月末日の奏功事例は83件で、前年同時期から3倍以上増加した。



(2) 住警器の発報原因別件数

死者発生数の多い「こんろ・ストーブ類・たばこ」を原因とする火災での奏功事例が20件から62件と3倍以上に増加している。死者低減に住警器普及の効果が表れてきていると考えられる。



※ 用語の定義

- ① 住宅用火災警報器(住警器)…火災安全システム、ホームセキュリティシステム及び自動火災報知設備を除く、一般住宅に設置された住宅用火災警報器。
- ② 住宅用火災警報器による奏功事例…住宅用火災警報器が鳴動したことで、早期に火災及び火災発生危険を発見し、被害の軽減に効果を発揮したと考えられ、東京消防庁が消防署からの報告などにより把握している事案。

## 住警器の効果で、火災による死者の発生を未然に防げたと考えられる奏功事例

### 【事例1】1階石油ストーブ出火！2階の住警器が発報

2階建て住宅の1階台所でテレビを見ていた女性（50歳代）が、階段に設置してあった住警器の警報音に気付いた。廊下に出ると、1階の和室の方から煙が出ていたため、和室の扉を開けると、黒い煙が噴出してきたため、慌てて扉をしめ、屋外に避難してから、119番通報した。

原因は、1階の和室で使用していた石油ストーブから周囲の衣類に着火したものの。

【平成21年12月 青梅市 部分焼火災 出火箇所 - 居室 鳴動箇所 - 階段 死者・傷者なし】

### 【事例2】ストーブに溜まったゴミに着火 通行人が警報音を聞き付け発見！

男性が道を歩いていると、住警器の警報音が聞こえたので、音のする方を確認すると、2階建ての住宅から煙が出ているのを発見し、年末警戒で巡回中だった消防団員に事態を知らせた。消防団員が扉越しに建物内を確認すると、石油ストーブから炎が上がっていたため、すぐに家の中に入り、台所の鍋に水を汲んでかけ、消火した。別の消防団員はその間に携帯電話で119番通報した。

原因は、ストーブ背面に溜まっていたゴミくずにストーブの炎が着火したものの。

【平成21年12月 葛飾区 ぼや火災 出火箇所 - 居室 鳴動箇所 - 居室 死者・傷者なし】

### 【事例3】2階寝室の電気ストーブから出火！ 警報音に気付き母親と避難

2階建て住宅の1階リビングルームでテレビを見ていた女性（50歳代）が、階段に設置してあった住警器の警報音に気付いた。2階に上がると、寝室から煙が出ていたため、すぐに2階の台所で食事中であった母親（80歳代）を1階玄関から屋外へ避難させ、建物に戻り119番通報した。

原因は、電気ストーブからの出火（電気コード短絡の疑い）したものの。

【平成22年1月 世田谷区 部分焼火災 出火箇所 - 寝室 鳴動箇所 - 階段 死者・傷者なし】

### 【事例4】火にかけたまま放置されたフライパンから出火！ 警報音に気付き初期消火

共同住宅に居住する男性（70歳代）が居間でうたた寝していると、台所の住警器の警報音に気付いた。すぐに台所を確認するとフライパンから煙が上がっていたので、玄関に置いてあった消火器で消火した。

原因は、調理中にその場を離れて、テレビを見ているうちに寝てしまったため、フライパンが過熱され食材から出火したものの。

【平成21年1月 中央区 部分焼火災 出火箇所 - 台所 鳴動箇所 - 台所 死者・傷者なし】

### 【事例5】たばこの不始末により出火 火元居住者は警報音で目覚め屋外へ避難

2階建ての共同住宅の2階に居住する男性（20歳代）は、住警器の警報音と「火事だ！」という声に付き、屋外に出ると、1階の部屋の窓から炎が出ているのを発見した。他の居住者と協力して、街頭消火器を使用して消火を試みたが、消火には至らなかった。

原因は、火元住宅に住む男性（60歳代）のたばこの不始末。たばこの火種がベッド脇の衣類に着火し、延焼拡大した。出火時、男性は就寝中であつたが、寝室に設置された住警器の警報音に付き、屋外に避難。大声を出して周囲に火災を知らせた。

【平成22年1月 中野区 部分焼火災 出火箇所 - 寝室 鳴動箇所 - 寝室 死者なし・傷者3名】

## 2 住宅火災による死者の発生状況について

### (1) 住宅火災による死者の発生数

毎年、12月から1月にかけての時期は、気温が低くストーブ等の使用頻度が高い上に空気も乾燥しているため住宅火災が多く発生し、死者の発生も集中します。

平成20年12月から平成21年1月にかけての2か月間で30人の死者が発生しました。年間の住宅火災による死者発生人数(※)の3割以上がこの2か月の間で発生したことになります。

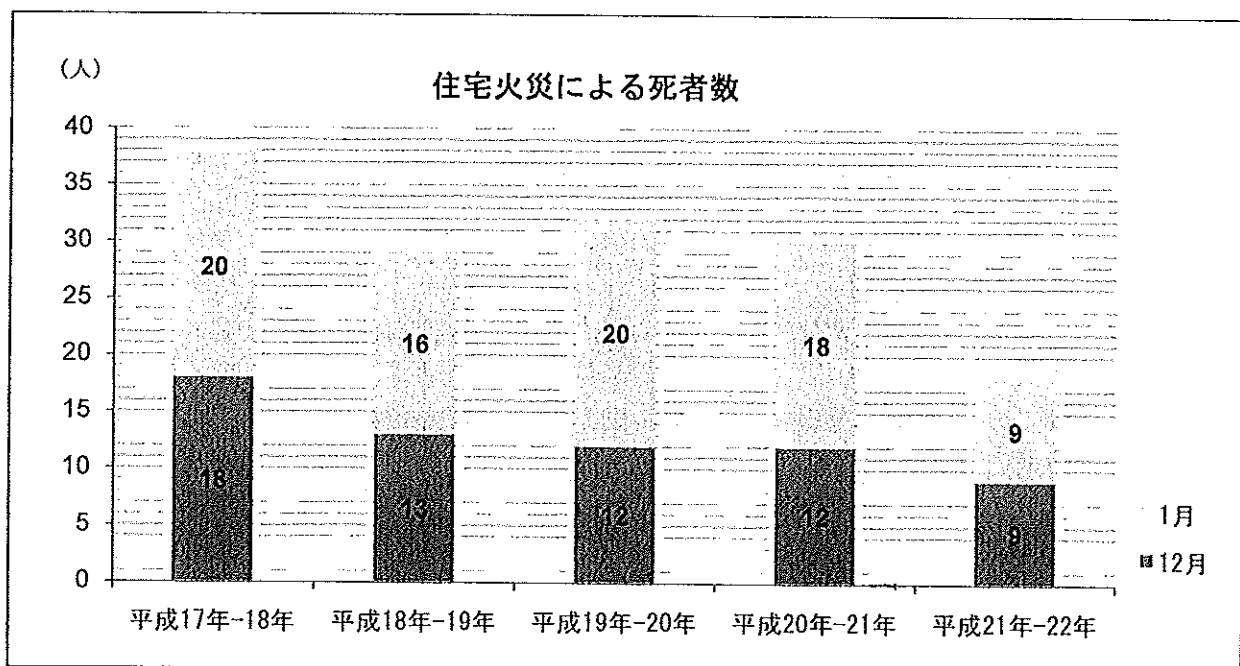
この傾向は、過去4年間のデータを見ても同様で、年をまたいだ冬の季節が、住宅火災による死者発生危険の高い時期であることがわかります。

しかし、平成21年12月から平成22年1月にかけての2か月間は、住宅火災による死者数が18人で、前年同時期から12人減少しました。1月中だけで見ると、18人から9人と半減しており、大幅な減少傾向が見られます。(表及びグラフ参照)

※ 平成17年から平成21年に発生した住宅火災による死者の年平均(94.8人)で計算

住宅火災による死者数(12月~1月)

区分	2か月合計	12月	1月
平成17年-18年	38	18	20
平成18年-19年	29	13	16
平成19年-20年	32	12	20
平成20年-21年	30	12	18
平成21年-22年	18	9	9



(2) 平成20年12月1日から21年1月末日までに発生した住宅火災による死者の発生状況との比較

項目	平成20年12月－21年1月			平成21年12月－22年1月		
住宅火災による死者数	30人			18人		
出火原因	1位	ストーブ類	9人	1位	ストーブ類	6人
	2位	たばこ	7人	2位	たばこ	4人
	3位	こんろ	5人	3位	こんろ	1人
		ライター	5人		ろうそく・線香	1人
	5位	電気コード(短絡)	2人			
	6位	ろうそく・線香	1人			
		不明	1人		不明※	6人
	合計		30人	合計		18人
住宅用火災警報器の有無	設置なし：27人 自動火災報知設備鳴動：3人			設置なし：10人 設置あり(鳴動不明)：6人 自動火災報知設備鳴動：2人		
出火時の状況	就寝中：12人 避難中：2人 不明：16人			就寝中：6人 避難中：1人 不明：11人		

※平成21年12月－22年1月の出火原因の「不明」は、「調査中」を含む。

⇒ 各期間ともに「ストーブ類」及び「たばこ」が出火原因となり、死者が発生していることが多い。

また、平成20年12月1日から21年1月末日までが4割以上、平成21年12月1月から22年1月末日までの3割以上の人が出火時に就寝中で、発見の遅れが重要な要因となっている。

注) 本分析の今期(平成21年12月－平成22年1月期)の火災データは、全て平成22年2月1日現在の速報値で、その後の火災調査等の結果により、変更となる可能性があります。